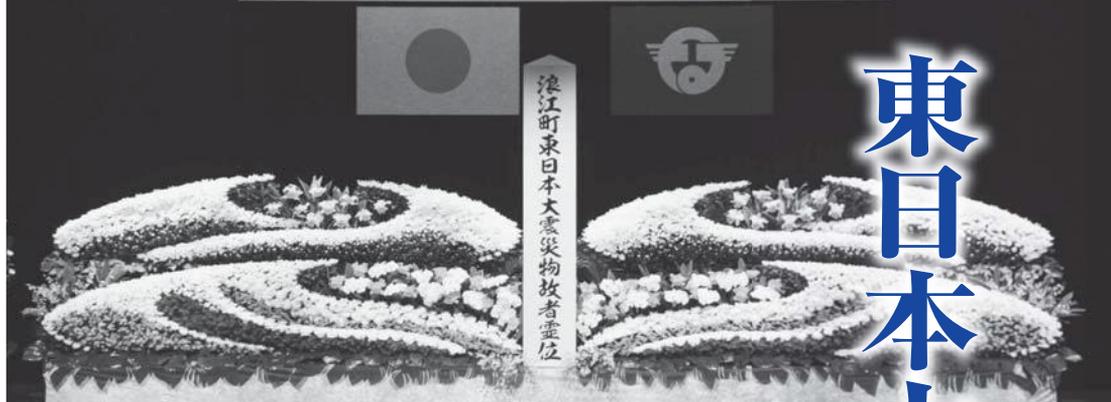


東日本大震災追悼式



大震災から6年となる3月11日、権現堂の浪江町地域スポーツセンターで浪江町東日本大震災六周年追悼式が行われ、ご遺族・来賓あわせて約160名が出席しました。式のはじめに参加者全員で黙とうをささげ、犠牲になられた方々のご冥福を祈りました。

馬場町長は式辞で、「今なお、全町民が広域的な避難生活と先の見えない不安な日々を強いられています。一年一年、復興に向け大きく前進を続けています。復興への道のりは、決して容易で平たんなものではありません。すべての浪江町民の皆さまと、震災直後から私たちを支援してくださった皆さまと力を合わせ、「くらしの再生」、「ふるさとの再生」という復興理念を実現し、次代に引き継ぐことを、ご霊前にお誓い申し上げます」と述べました。



また同日、浪江町東日本大震災慰霊碑の除幕式も併せて行いました。犠牲になられた方の鎮魂と町の復興、後世への震災の訓戒のために、請戸の浪江町宮大平山霊園に建立したものです。この慰霊碑に刻字された碑文をご紹介します。

平成二十三（西暦二〇一一）年三月十一日午後二時四十六分、福島・宮城・岩手を中心に最大震度七の地震が発生した。この地震により家屋は倒壊し、道路は寸断された。その約四十分後に浪江町沿岸に津波の第一波が到達した。第二波が襲来した後、さらに高さ十五mを超す大津波が町を襲った。住民にはこれまで大津波被災の記憶はなく、避難が遅れ大津波に驚愕し、請戸・中浜・両竹・南棚塩の集落は全てのみ込まれた。

翌十二日には東京電力福島第一原子力発電所の事故により、国から避難指示が発令されたため、住民は避難を余儀なくされ、捜索や救助を断念せざるをえなかった。この地震と津波により、住民百八十二名の尊い命が失われた。私達は、災害は再び必ずやってくることを忘れてはならない。

ここは太古の昔から人が住み、青い海と白い砂浜を眺望できる所である。この地に、犠牲者の御霊を慰めるとともに、先人が愛した豊穡の大地と海を慈しみ、浪江町の復興を願い、この碑を建立する。

平成二十九年三月十一日 建立者 浪江町